

島々を抱く穏やかな海で自然の恵みを生かしたサステナブルシティ

熊本県上天草市（2022年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

本市の「海」を中心とした豊かな自然は、多くの市民にとって、本市に暮らすことの「喜び」、「しあわせ」の根源として、また、多くの市外からの来訪者に「癒し」、「感動」を与える観光地の魅力として、活力ある地域社会を支える象徴的、普遍的な資源である。
海の恩恵を受けて、本市で暮らし生き続けるためには、温室効果ガスを抑制し、海水温の上昇を防ぎ、海の恵みを保持していく必要がある。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 （三側面をつなぐ統合的取組概要を含む）

本市の各島で、それぞれの特性に応じて、「海を守る」、「海を活かす」、「海と生きる（市民生活を向上させる）」の施策を実施することで、SDG s の各目標を達成するとともに、それらの成功事例や課題を島々で共有し、展開していくことで、本市がサステナブルシティとなるよう事業を推進する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

2023年度は本市におけるブルーカーボン量を効率的かつ効果的に把握することができる方法を検討し、「上天草市におけるブルーカーボン量算定マニュアル」として整理した。

このほか、漁業協同組合や民間企業と連携し、地元の小学生や市民とともにアマモ場の整備・再生を行った。



5. 取組推進の工夫

ブルーカーボンの取組においては、専門的な知見が必要になることから、随時専門家の助言を得ながら事業を行っている。

また、海の取組となるため、地元漁業協同組合との対話を重視し、密に協議を行っている。

6. 取組成果

「地球温暖化に対する関心度・取組への満足度」というK P I については、2024年の26.9%の目標に対して、2023年は23%となっており、今後も継続して本市内での取組を広く周知し、また、より多くの市民が参加できる場を設けることで関心度・満足度を高めていきたい。

「上天草市におけるブルーカーボン量算定マニュアル」により、市内団体が「ブルークレジット」への認証申請ができるよう環境整備を行ったため、市HPに掲載する等広く周知することで、各団体がクレジットの販売益を藻場造成の活動資金に充て持続的に活動を進めることを期待している。

7. 今後の展開策

2024年度においても、漁業協同組合や民間団体と連携し、アマモの植付け作業を継続して行っており、6月に種子を採取し、9月に植付けを行う予定。

また、上天草市ブルーカーボン創出活動支援助成金を2024年から新設し、市内団体がブルーカーボン創出活動を行う支援をしている。今後、海をなりわいとする企業からの企業版ふるさと納税などを財源に本助成金を継続して実施していく体制を構築してまいりたい。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金及び（株）肥後銀行が環境省「令和の里海づくりモデル事業」に採択され実施している「八代海沿岸域における産官学金民連携による広域的・持続可能なアマモ場再生支援体制構築事業」に協力し、天草市・苓北町・芦北町とともにアマモ場再生の取組を行っている。その他、ブルーカーボンに関心のある企業と意見交換を継続的に行い、今後の展開を検討している。